

ニューズレター 経済教育学会

2017. NOV. No.28

会長挨拶・・・1 大会報告・・・2～3 学会賞推薦募集・・・4 春季研究集会案内・・・5
理事会議事録・・・6～8

会長に新里泰孝会員が選出されました。ご挨拶を掲載します。

会長就任のご挨拶

経済教育学会 会長新里泰孝（富山大学）

第33回全国大会（会場・富山大学）の理事会において、平成29年度の会長に選出されました新里です。大会開催校が次年度の会長に就任するという慣例に従って推薦されました。前年度の水野会長は、非常にアクティブで、フットワークがよく様々な活動を推進されました。韓国経済教育学会との協定締結、授業紹介、能動的地域研修会、ワーキングペーパーの開設、COREプロジェクトなど。わたくしにはそのような多彩な活動は困難ですが、水野会長が進めた流れを着実に実行して行きたいと思えます。

そのためには、会員数の拡大と財政基盤の確立が必要です。会員数は確かに減少しましたが、個人的には、新たに若い人が、少なからず加わっており、活発な学会活動を展開することが、新入会員に魅力ある学会となり、会員数の増加に繋がると思えます。

グローバル活動として、韓国経済教育学会の春（2月）と夏（8月）の大会への会員派遣を行います。また、COREプロジェクトでは、来年3月に会員数名がロンドンのCORE本部（University College London）を訪問し、ワークショップとCORE授業参観を行います。

能動的地域研修会は、水野前会長がその担当理事となり、活発に開催されることでしょう。ワーキングペーパーは、現在、その第1号発行の準備を進め

ております。研究ノートや講義ノートをホームページに掲載できるように進めてゆきます。ホームページを会員の情報発信、研究交流の場とすることも課題です。

本会は、大学、高専、中高の教員のみならず、民間の研究者、経済教育活動家まで、幅広い会員から成ることが特徴です。2018年3月24日（土）には松山大学において春季研究集会、9月29日（土）30日（日）には大阪教育大学において全国大会を開催します。本学会が様々な分野の方々の情報発信と研究交流の場となるよう努めたいと思えます。皆様のご助言とご協力をよろしくお願い申し上げます。



第33回全国大会の報告

大会実行委員長 新里泰孝

2017年9月30日（土）10月1日（日）に、経済教育学会第33回全国大会が富山大学経済学部を会場に行われました。当日は晴天に恵まれ、立山連峰がきれいに望め、盛況のうちに無事終了いたしました。参加者は1日目70名（招待者2名含む）、2日目は20名追加で90名。うち非会員が17名です。富山県内の3つの高校から非会員の方の参加がありました。また他県の非会員の参加は、近隣では石川県、岐阜県、遠くは、大阪、山口、青森からで、大学、短大、高専、中学、小学校所属の方の参加がありました。全国の遠方から非会員が参加することは予想外でした。

1日目の基調講演・シンポジウムは活発で充実した議論がなされました。北海道大学名誉教授佐々木先生の基調講演は、「知るとはどういうことか」という哲学的な問いをベースにユニバーサル段階の大学教育における学習主体の内発的動機の促進を強調する内容でした。次いで、中村学部長からは富山大経済学部の教育実践や卒業生アンケート結果に即しながら、また、高橋会員からは中等教育の実践を理性的認識と感性的認識との対比を軸に、さらに、川合会員からは、高大連携実践としての大学教育の実践例の紹介を通じて、主体的学びのありようを探る現状報告がなされました。参加者同士のペア討議を2回はさみながら質疑応答へと進む全体討議に進む形式を通じて、基調講演者と3人のパネリストに対して様々な角度から次々と質問が寄せられ、会場が一体化した活発なシンポジウムでした。夜の懇親会は40名の出席があり、韓国から3名のお客様を迎えて、富山のお酒、お寿司、お刺身を堪能し、大いに盛り上がりました。

2日の分科会は40本（昨年は30本）の報告数を記録しました。教室によっては、補助いすが足りなくなりそうなどころもありました。12の分科会が設けられました。経済基礎理論・経済概念（1）（2）、金融・財政・税、新たな経済教育をめぐって、授業実践・教育方法（1）（2）、コアプロジェクト（1）（2）、韓国における経済教育、労働問題・キャリア教育、主体的な学び、主権者教育です。個別テーマの内容は、ここでは紹介できませんが、次年度の分厚い『経済教育』に発表されることと思います。

分科会終了後に、研究倫理セミナーが高橋・学会誌編集委員長の司会で開催されました。富山大学経済学部垣田直樹教授が「富山大学経済学部経済学科における1年次教育の

試み」と題して、レポートの作成の指導法を報告しました。そして、田中淳・編集委員から、学会誌投稿者への論文作成時の引用方法の注意点などの説明がありました。初めての試みでしたが、約30名の出席があり有意義でした。皆様方におかれましても大変充実した大会であったと思っております。皆様のご協力に感謝いたします。

基調講演 佐々木先生



シンポジウム 中村先生



研究倫理セミナー 垣田先生



2018 年春季研究集会ご案内と報告者の募集

2017 年 9 月 30 日(土)

実行委員長 竹田英司(松山短期大学)

経済教育学会 2018 年春季研究集会を以下のように開催します。多数のご参加をお願いいたします。会場の松山大学は、松山空港からタクシーで 30 分ほどです。

2018 年春季研究集会は、「各校における経済教育の取り組み」をテーマに行います。

文部科学省初等中等教育局教育課程課(2017)『学習指導要領』では、「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」という、これからの教育課程が示されています。そして「どのように学ぶのか」という視点から、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つを組み合わせた能動的学修(Active Learning)による学習過程の改善が、いま進んでいます。2018 年春季研究集会では、これらの状況のもと、各校または各教員における経済教育の取り組みについて考えていきます。

- ・ **日時:**2018 年 3 月 24 日(土)12:00~16:00(受付 11:30 より)
- ・ **会場:**松山大学樋又キャンパス 2 階 H2B 教室

《プログラム》 発表申込件数などの関係で時間は前後する可能性があります。

3 月 24 日(土) 11:30~ 受付開始

12:00~13:20 理事会

13:30~14:20 共通論題

14:30~16:00 自由論題

16:00 閉会

17:00~19:00 懇親会

《研究発表申込み》 **締切:2018 年 1 月 26 日(金) 必着**

- ・ 申込方法:経済教育学会公式 web ページから、もしくは郵送でご応募ください。1. [学会公式 web ページ] 必要事項を入力してください。2. [郵送] 必要事項を記入した用紙を封入の上、下記連絡先に「春季研究集会発表申込」と封筒の表に明記して送付ください。共同発表の際は、代表者の方を最初にご記入ください。代表者(発表者)は会員に限ります。
- ・ 記入事項:①報告者名、②ご所属・職務、③連絡先電話番号、④メールアドレス、⑤共通論題・自由論題の希望、⑥発表テーマ、⑦発表要旨(400 字程度)
- ・ その他:申込者が多い場合には、発表テーマにより実行委員会で選定します。選定結果は 2 月初旬にお知らせします。

《懇親会 参加申込み》締切:2018 年 3 月 9 日(金)

- ・ 懇親会費:4000 円程度予定(当日お支払)
- ・ 参加申込:年明けから経済教育学会公式 web ページで受け付けます。研究集会に参加される方は学会公式 web ページでご確認ください。

《申込み・連絡先》

学校法人松山大学 松山短期大学商科 竹田英司研究室

〒790-0826 愛媛県松山市文京町 4-2

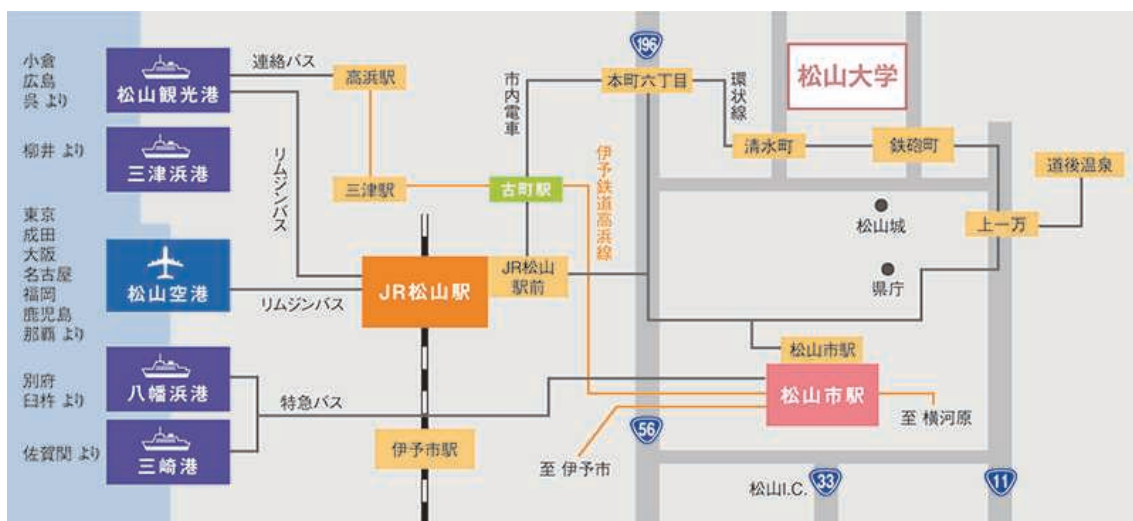
メモ

- 羽田空港経由でお越しの場合
 - ANA585 便 羽田 - 松山 09:35 - 11:00
 - JAL433 便 羽田 - 松山 09:45 - 11:15

 - JAL596 便 松山 - 羽田 17:10 - 18:45
 - JAL438 便 松山 - 羽田 17:05 - 18:35

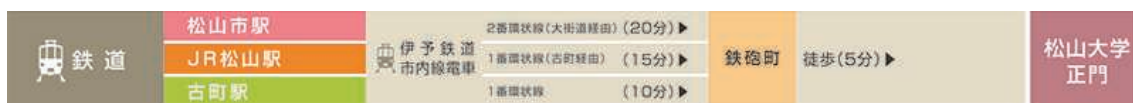
 - 富山空港 ↔ 羽田空港
 - ANA312 便 富山 - 羽田 07:10 - 08:15
 - ANA321 便 羽田 - 富山 19:50 - 20:45
- 伊丹空港経由でお越しの場合
 - ANA1639 便 伊丹 - 松山 11:15 - 12:05
 - ANA1646 便 松山 - 伊丹 17:05 - 17:55

飛行機・船でのアクセス



松山空港から出ているリムジンバスは、JR 松山駅を経由します。JR 松山駅でリムジンバスを降り、伊予鉄道(路面電車)で JR 松山駅前から鉄砲町まで、公共交通機関だけで行くこともできます。公共交通機関を使った場合、松山空港から松山大学までの所要時間は、約 50 分です。

主要駅から松山大学樋又キャンパスまで



経済教育学会 2017 年 7 月理事会 議事録

開催日時：7 月 15 日（土）13:00～16:55

開催場所：富山大学

出席者：宇佐見義尚、大坂洋、川合宏之、久井田直之、塩田尚樹、中里弘穂、新里泰孝、裴光雄、松尾匡、水野勝之、八木紀一郎、八木尚志、齋藤哲哉（※）

オブザーバー：中谷武雄

（※）齋藤事務局長はテレビ会議システムによる出席

定足数 30 名、出席者 12 名、委任状 7 名

◆議長・書記選出◆

理事会が成立していることを確認され、議長に水野会長を、書記に川合理事を選出した。

◆報告事項◆

1. 春季研究集会の終了報告

水野会長より、3 月 18（土）、19 日（日）の 2 日間、日本大学経済学部で開催された春季研究集会の報告がなされた。1 日目のテーマは、「英語による専門科目講義の意義と課題」、2 日目のテーマは「CORE プロジェクト」。討論した結果、本学会でこの CORE プロジェクトのガイドブックを作る方向で話がまとまったことなどが報告された。

2. 第 1 回地域研修会の終了報告と本日の第 2 回地域研修会について

水野会長より、今年から地域研修会を実施することにした。今年度 1 回目は 5 月に千葉県浦安市立明海中学校で行い、2 回目は本日の理事会終了後に実施するとの報告があった。非会員にも参加してもらい、本学会を知ってもらい会員を増やしていきたいという狙いもあるとの発言があった。

3. 2018 年 3 月の春季研究集会について

久井田理事より、2018 年 3 月の春季研究集会は松山大学で 3 月 10 日（土）または 11 日（日）に行われることが報告された。この件に関して、中里理事から国公立大学の後期日程なども考慮する必要があるのではないかと指摘があり、日程について再検討することとなった。

4. CORE プロジェクトの近況について

水野会長より、CORE プロジェクトのガイドブックについて、あらためて作成を目指す旨が報告された。また八木紀一郎理事よりサムエル・ボウルズ氏とのやりとりの報告もあり、今後大会に招聘する件についても検討していくこととなった。

5. 学会誌バックナンバーについて

久井田理事より、会員よりバックナンバーを入手したいとの要望がある旨が報告された。在庫がゼロのバックナンバーについては電子化し、コピー販売やダウンロードできるようにすることなどを今後検討することとなった。

6. 学会誌 J-STAGE 登載について

久井田理事より、学会誌の J-STAGE 登載に際し、フォーマットの関係で手間がかかっている。現在は印刷業者が好意

で対応してくれているが今後は検討が必要であると報告があった。また宇佐見理事より、編集委員会の要望として研究倫理を遵守する体制を作る必要があるとの発言があった。総会で議題としてあげ、セミナー等を実施していく方向が確認された。

7. 振込用紙送付について

久井田理事より、学会費の振込用紙の送付について、今年度は過年度分についても表記するようにした。納付率が上がっているため効果があったのではないかと報告があった。

8. ホームページのリニューアルについて

大坂理事より、新しいシステム変更に伴い、移行作業に時間がかかっている。今後会員のワーキング・ペーパーなどを学会のホームページ上にアップできるようにもなる旨の報告があった。

9. 韓国経済教育学会との協定締結について

水野会長より、韓国経済教育学会と今年 8 月に協定締結する旨が報告された。

10. その他

齋藤事務局長より、学会賞選考に関して、奨励賞は該当者がいなかったことが報告された。奨励賞の条件に 35 歳未満の年齢制限が厳しいのではないかと発言もあった。今後学会賞選考委員会で検討し、理事会に提案することとなった。

◆審議事項◆

1. 補充理事について

新里理事より 2017 年度全国大会担当理事として小柳津英知会員を補充理事とする提案があり了承された。

2. 学会誌投稿規定について

久井田理事より韓国経済教育学会との協定締結後、相互の学会に論文投稿が可能になることから、J-STAGE 登載に関連して、「投稿者が母語ではない言語で投稿する場合、ネイティブチェックを受けてから投稿する」と投稿規定に入れる提案があり、承認された。

3. HP 管理委員会とワーキングペーパー管理委員会について

水野会長より、HP 管理委員会メンバー、ワーキングペーパー管理委員会設置の提案があり、承認された。

HP 管理委員会：大坂理事、川合理事

ワーキングペーパー管理委員会：井草理事、竹田理事、飯嶋理事（※）

（※）飯嶋理事には現在依頼中。ご本人の承諾があればメンバーとする。

4. 本学会 HP でのアクティブラーニング討論サイトについて

大坂理事より、本学会ホームページでのアクティブラーニング討論サイトについて今後活発に運営していくことが確認された。討論サイトという名称については検討するこ

ととなった。

5. シニア会員の会費について

久井田理事より、シニア会員の会費について年齢や会費の設定等について今後検討し提案することが伝えられた。

6. 2018 年度全国大会について

裴理事から、理事会の承認を得て、2018 年 9 月 29 日（土）、30 日（日）に大阪教育大学天王寺キャンパスで全国大会を開催する提案があり、承認された。

7. 次年度以降の研究会と理事会の開催について

久井田理事から、次年度以降の全国大会前の理事会は研究会も同時開催することが提案され、承認された。

8. 研究報告分科会原案について

新里理事より、第 33 回全国大会の分科会について、配布資料にもとづき提案があった。司会担当予定については、第 1 分科会（午前）が新井・田中、第 2 分科会（午前）が中谷・河原、第 3 分科会（午前）が大坂・竹田、第 4 分科会（午前）が中里・猪瀬、第 5 分科会（午前）が塩田・八木（紀）、第 6 分科会（午前）が裴・浅野、第 7 分科会（午後）が八木（尚）、松尾、第 8 分科会（午後）が川合・小柳津、第 9 分科会（午後）が高橋・宇佐見、第 10 分科会（午後）が井草・齋藤、第 11 分科会（午後）が水野・久井田、第 12 分科会（午後）が橋本・山根に、それぞれ決定された。なお今回の理事会に出席していない理事・会員への司会依頼については、実行委員会から改めて連絡することが確認された。

9. 大会予算案原案について

新里理事より、第 33 回全国大会のスケジュール等について、配布資料にもとづき提案があり、承認された。その他、懇親会費を 4000 円とすること、10 月 1 日の昼食を 1000 円（任意）であることなどが確認された。

10. 大会スケジュール案について

新里理事より、第 33 回全国大会のスケジュール等について、配布資料にもとづき提案があり、承認された。

11. 大会告知等に関して

新里理事より、第 33 回全国大会の大会告知等について、配布資料に基づき提案があり、承認された。

（川合宏之）

経済教育学会理事会議事録

日時：2017 年 9 月 30 日 11:00～13:00

於：富山大学経済学部大会議室

定足数 32 名

出席者 阿部信太郎、井草剛、宇佐見義尚、大坂洋、小柳津英知、川合宏之、久井田直之、齋藤哲哉、高橋勝也、竹田英司、田中淳、中里弘穂、新里泰孝、裴光雄、松尾匡、松本朗、水野勝之、山根栄次（オブザーバー 橋本勝、中谷武雄）、計 18 名。 委任状 8 通。

議事に先立ち、議長に水野勝之氏、書記に大坂洋氏が選出された。

報告事項

1. 韓国経済教育学会との協定の締結

韓国経済教育学会と協定を締結した。協定書を議場で回覧し、承認された。協定が施行されるのは、来年度の大阪教育大学での全国大会からとなる。

2. 能動的学習研修会

会員増をねらいとする地域研修会が春季研究集会での拡大理事会で提案された。それをうけて、2017 年 5 月 13 日（土）千葉県浦安市立明海中学校で第一回能動的学修研究会、2017 年 7 月 15 日（土）富山大学で第二回能動的学修研究会が行われた。

参加者は多くなく、当初の目的の会員増には現状では結びついていないが、参加者からは、満足した旨の声が多く、今後に期待しうる。

3. 会費納入の現状

現状で会費納入が 100 万円程度であり、厳しい財政状態が続いている。会員からの納入状況そのものは円滑であるが、退職にともなう退会者が多く、特別会員への移行が順調でないことと、入会者が減少傾向であることが、財政状況が好転しない原因である。

4. 2016 年決算、2017 年予算案

学会費編集経費が、2016 年予算に比べ、2016 年決算、2017 年予算で大幅に増加しているのは、従来、事務局経費として計上されていた査読手数料を付け替えたためであり、この項目についての実質的な支出増、予算増はない。

春季研究集会の決算増は、例年より長い 2 日間の開催としたこととともない、学生アルバイトなどの経費が増加したためである。

会費収入は従来 120 万円ほどを見込んで予算に計上してきたが、今年度は近年の実績にあわせて 115 万円に修正した。

5. 学会賞について

今回の学会賞の応募は、選考委員からの推薦 1 件のみであった。選考委員会としては、選考規約が公募による選考を前提していることに鑑み、この状況のまま選考を行うことは、公募の健全性が保てないと判断し、今年度の選考を行わなかった。

選考委員会は新たに公募を行った上での選考過程の延長を提案した。しかし、今年度の学会賞は該当者なしにするべきという意見などもあり、継続審議となった。

選考委員会では、そもそも学会員数にくらべて、学会賞の表彰項目が多すぎると考えており、この点に関して、規約の見直しを理事会において検討していくこととなった。

6. 学会誌編集委員会より

『経済教育』36 号の印刷はすでに済んでおり、冬のニューズレターを同封して発送される予定である。

ページ数増が問題になりつつあるため、分科会報告の原稿依頼文の分量を減らしてお願いすることが報告された。

J-stage での学会誌公開にともない、掲載内容に著作権違反がないかについて慎重にならざるをえない状況にある。そのため、今回の全国大会では、分科会終了後に研究倫理セミナーを開催する旨の報告があった。

審議事項

1. 総会での承認依頼事項と入会員、退会者の確認が行われ、承認された。

2. 次期会長の選出が行われ、新里泰孝氏が次期会長に就任することが承認された。
3. 2018年3月の春季研究集会(松山大学樋又キャンパス)の案内が配布されて、大会のテーマなどが承認された。
(大坂洋)

2017年度 経済教育学会総会議事録

I. 審議事項

第1号議案. 2016年度会務報告 事務局久井田会員より資料に基づいて説明があり、異議なく了承

第2号議案. 2016年度決算報告 事務局久井田会員より資料に基づいて決算状況について種々説明され、異議なく了承

第3号議案. 2016年度会計監査報告 会計監査の橋本会員より資料に基づいて説明があり、適切に処理された旨報告された。その後、疑義なく了承された。

第4号議案. 2017年度予算 事務局久井田会員より2017年度予算案について報告された。特記すべきこととして次年度繰越金が100万円を割り込むことが指摘され、経費の節減だけでは対応できず、会費など収入の増加策の必要が強調された。中里会員より対策のあり方、会員増の方策などについて質問があった。これに対して、事務局より会費の値上げおよび会費未入者の削減や退会者の歯止めの方策などが指摘された。事務局ではいくつかの手は打っており、一定の効果は出ているものの、抜本的な方策の必要性が言及された。

会長より会員の増加につながるような学会の魅力を高める努力の必要性が指摘されると同時に、学会発表が増えるなどの明るい兆しがみられるとの報告があった。中里会員の提案により会費の値上げや大会参加費の徴収などの具体的な検討に入ることになった。

以上の議論の上、予算案は了承された。

第5号議案. その他 学会賞選考委員の山根会員より、本年度の学会賞については本総会では報告せず審議を継続する旨、報告があった。審議を継続する理由として、システム上の理由からなお審査が必要な論文が出てきたためであるとの報告があった。その後異議なく了承された。

II. 報告事項

1. 韓国経済教育学会との協定締結 水野会長より8月23日に関係会員と共に韓国に赴き、韓国経済教育学会との協定締結について以下のように報告があった。内容のポイントは、①報告を希望する会員が出た場合は、審査の上、相互の学会で報告ができる。②年間2名以内で相互の学会で会員を招聘することができる。宿泊費3泊を補助する。③相互の学会誌に投稿できる。なお、韓国経済学会の大会は、2月と8月の年2回である。

2. 会費の納入状況 久井田会員より資料にもとづいて報告があった。特記事項として昨年度までとは形状が異なっている点。未納入会員が73名になり、例年より少なくなったと報告された。

3. 会費の異動 久井田会員より会員数の報告があった。

4. 2018年度春季研究集会 松山短期大学で2018年3月24日に春季研究集会が行われることが報告され、竹田会員から挨拶があった。

5. 第34回全国大会 2018年度全国大会を大阪教育大学

で行われる旨、報告があった。

6. その他 *高橋会員より学会誌第36号発刊の報告と、次号の学会誌投稿について注意事項が説明された。*水野会長より次期会長として新里会員(富山大学)が内定された旨、報告があった。その後、新里会員より挨拶があった。
(松本朗)

経済教育学会理事会議事録

日時: 2017年10月1日12:00~13:00

於: 富山大学経済学部大会議室

定足数 32名

出席者 阿部信太郎、井草剛、宇佐見義尚、大坂洋、小柳津英知、金子浩一、河原和之、川合宏之、久井田直之、齋藤哲哉、塩田尚樹、高橋勝也、竹田 英司、田中淳、中里弘穂、新里泰孝、裴光雄、松本朗、水野勝之、八木紀一郎、八木尚志、山根栄次 (オブザーバー 橋本勝、中谷武雄、高山新、関本祐希)、計22名 委任状 4通。

議事に先立ち、議長に山根栄次氏、書記に高橋勝也氏が選出された。

報告事項

1. 学会誌編集委員会より

来年度の委員会体制は、原則、現在の委員で継続していくことを確認した。

2. COREプロジェクトについてロンドンでの活動報告 水野勝之氏、八木紀一郎氏、新里泰孝氏、久井田直之氏の四名が来年の三月にCOREプロジェクトの本部のロンドンを訪問する予定であることが報告された。

審議事項

1. 補充理事の選出

(1) 来年度の大阪教育大学での全国大会の大会運営委員として、高山新氏、関本祐希氏が補充理事に推薦され、承認された。

(2) COREプロジェクトの活動充実に向けて、徳丸夏歌氏が補充理事に推薦され、承認された。

2. 役員選出(理事の担当の決定)

(1) 事務局から今年度から行っている地域研修会の継続と推進のため、担当理事が必要である旨の説明があり、前会長で地域研修会の運営に携わった水野勝之氏に引き続き担当としてお願いしてはどうかとの提案があり、承認された。

(2) 事務局長齋藤哲哉氏から事務局の増員の必要性があるとの説明があり、高橋勝也氏が推薦され、承認された。

(3) J-STAGEの登載業務の担当理事の必要性に関して、事務局から説明があり、学会誌編集員の竹達健頭氏が担当になることが承認された。

3. 選挙管理委員の選出

水野勝之氏、阿部信太郎氏、齋藤哲哉氏、久井田直之氏、前任者として角田収氏の五名を選出した。

4. 学会賞について

(1) 奨励賞については、35歳未満から41歳未満へ変更することが提案され、大きな異議はでなかった。

(2) 学会賞の規定に関する変更については継続して審議していくことが確認された。理事会の開催が難しいので、

メールによるやり取りでの継続審議を行うことになると
の見通しが示され、正式には、春の理事会（松山大会）で
承認を得る方向で進めていく旨が報告された。（高橋勝也）

CORE プロジェクトリレーコラム

第33回全国大会では、Core project 日本語版ガイドラインの作成に関するフォーマット案を提言した。筆者はユニット4を担当し、ゲーム理論の解説に努めている。初心者の学習を念頭に置き、数学や英単語の解説、経済学の専門概念の解説に力を入れている。4月には筑波大学大学院の講義にて、ユニット4を用いて講義を行った。大学院生に模擬ゲームをプレイさせるなどして、Core econ のオンラインソースを取り入れた講義が有効であることを確かめた。また各ユニットの内容には関連性があり、それらの結びつきが欠けると（例えばユニット4はユニット3の効用最大化問題を利用する）、初心者が理解しづらくなることが判明した。

そこで全国大会では、各ユニットの結びつきについてコラムで取り上げるよう提案した。提案に関して賛同を得られた一方、専門用語に関する情報量を適度に調整しなければ、オンラインソースの面白みが失われるとのご指摘をいただいた。さらに、英語と経済学を同時に学べる強力なツールとして、core を俯瞰した際、どの程度の補足説明を与えるべきか再検討し、春季大会にて報告したい。
(宮下春樹)

<会員の異動>新入会員

2017年度 新規入会会員（ニューズレター第27号以降）

正会員 金奉吉（富山大学経済学部）岸香おり（国際基督教大学高等学校）関本祐希（大阪府立交野支援学校四條畷校）高山新（大阪教育大学）北原武（お茶の水女子大学附属高等学校）長野達也（高山自動車短期大学）ダガンアンソニー（金沢大学経済学類）

学生会員 黒沢健人（明治大学商学部）廣瀬佑（明治大学商学部）柴田加菜子（明治大学商学部）橋本想吾（早稲田大学大学院）大塚雅之（大阪教育大学大学院）

会費納入のお願い

2017年度の年会費をまだお支払いいただいていない方、過去に未納のある方につきましては納入のご依頼をお送りさせていただいております。下記の振替口座に年会費のお振込みをお願いいたします。また、特別会員制度により、65歳以上の方は年会費が2,500円となります。該当する方は学会事務局へのメール(office@ecoedu.jp)もしくは、事務委託先 株式会社サフトまで御連絡願います。下記の振込口座での振込みも可能です。

ゆうちょ銀行 口座番号:00920-3-252875 口座名義:経済教育学会

年会費:正会員 5,000円、学生会員(大学院生を含む)2,000円、65歳以上の会員 2,500円

経済教育学会は日本学術会議協会学術研究団体(詳細は <http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)です。学会費は所属先の校費にてお支払頂ける場合があります。以下引用の規約にもとづき、過去の会費の未納分がある方は早急に会費を納入願っております。「2年間にわたり会費を納めないものは、原則として会員の資格を失う。学会誌送付時で年会費未納の会員については、その旨を伝えて、本会の出版物の配布を保留し、会費納入後に送付することとする」(会則4より)

*複数年分の会費を納入される方は、振込用紙の通信欄部分に未発送の学会誌の号数をご記入ください(または事務局へメールでご連絡ください)。過去に複数年分の会費納入された方で、学会誌で受け取っていないものがございましたら、お手数ですが、ご連絡をお願い致します。

経済教育学会 ニューズレター 第28号

2017年11月1日発行

発行人 経済教育学会 会長 新里泰孝

編集人 齋藤哲哉 久井田直之

発行所 日本大学経済学部 齋藤哲哉研究室

〒101-8360 東京都千代田区三崎町1-3-2

発送元 株式会社サフト経済教育学会担当

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

FAX: 079-224-7746 電子メール office@ecoedu.jp

学会費送金先 ゆうちょ銀行 振替口座番号 00920-3-252875

印刷所 株式会社 エムディーエス 03-5829-4960

学会運営と情報共有の円滑化のため、メールアドレスの登録をお願いしております。登録されておられない方は学会事務局のメールアドレス office@ecoedu.jp に御知らせ願います。左のQRコードより、携帯メールから登録可能です。

